

「ご遺族様と社員との対話」 概要

1. 開催日時 2023年5月10日（水） 14:45～17:30
2. 開催場所 横浜市内
3. 出席者 ご遺族様2名、当社社員15名

4. 概要

○意見交換の概要

- ・ご遺族様から、笹子トンネル天井板崩落事故（以下「事故」という。）の発生から現在までのお亡くなりなられたお子様に対する想い、事故についての想い、当社や当社社員に期待することなどについてお話いただいた。
- ・ご遺族様から社員に対して、事故以前の点検方法などについて何でもいいので知っていることを教えてほしい、との問いかけがあった。
- ・当社社員から、事故当時の所属と業務内容、事故後に対応した業務や現在おこなっている安全性向上に向けた取組みなどについて話し、事故後の社員個人の意識の変化やこれからの取組みに生かしていきたいことなどについて意見交換をおこなった。
- ・ご遺族様から、今後はエンジニアリング会社の社員を含め、もっと現場に近い立場の社員との対話の開催についてご要望があった。

○当社社員の感想

- ・ご遺族様の今のお気持ちに直接接することにより、自らの仕事やお客様の安全についての責務の重さをあらためて実感した。事故当時感じたことや今思うことを、後世に自らの言葉で伝えていかなければならないと強く感じた。
- ・これからも老朽化が進む構造物を管理するにあたって、道路管理のプロとして当事者意識と高い感度を持って対応していかなければならないと感じた。事故後に入社する社員が増えていく中で、事故の教訓をしっかりと伝承していくことやリスク事象を共有していくことも私たちの責任であると思った。
- ・事故後に入社した社員も含めて、全社員一人ひとりが事故を引き起こした会社の社員であるとの意識を持ち、人命にかかわる仕事をしているという使命感と誇りを持ち続けられるよう、今回ご遺族様からお聞きした想いを社内にしっかりと伝えるとともに、ご遺族様の期待に応えられるように、安全性向上に向けた着実な事業の執行や安全活動の取組みに向き合っていきたい。
- ・ご遺族様の「事故以前の点検方法などについて知っていることを教えてほしい」との問いかけに対しては、何も知っていることがないためご要望に応えられず、申し訳ない気持ちであったが、ご遺族様のお気持ちを直接お聞きできる大変貴重な機会であり、事故の記憶を風化させず社員の安全意識を高めるためにも、このような対話を継続しておこなうことは有意義だと思う。

○今回の対話を受けての当社の取組み

- ・参加した社員は、社内研修やそれぞれの職場での職場討議などで、今回お聞きしたご遺族様の想い、参加した感想や今後の取組みに生かすことなどを自身の言葉で発信し、社内の安全意識のさらなる浸透を図る。
- ・ご遺族様から継続的な開催のご要望をいただいております。また、当社としても今回の対話は事故の記憶の風化を防止し安全性向上に向けた取組みを深化させるために有意義であったことから、今回ご参加いただいたご遺族様以外のご遺族様へも引き続きご相談し、次回の開催を前向きに検討していく。

以上